

自己評価票

- 自己評価票は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていく指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料をなります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公表されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V サービスの成果に関する項目	13
合計	100

- 記入方法
 - [取り組みの事実]
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)
 - [取り組んでいきたい項目]
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。
 - [取り組んでいきたい内容]
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組みの内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。
 - [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。
- 用語の説明
 - 家族等 → 家族、家族に代る本人をよく知る人、成年後見人等を含みます。
 - 家族 → 家族に限定しています。
 - 運営者 → 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 - 職員 → 管理者及び常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につく全ての人を含みます。
 - チーム → 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。
- 評価シートの説明
評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム えびらお
(ユニット名)	Bユニット
所在地 (県・市町村名)	長崎県北松浦郡江迎町栗越免字源八 801-2
記入者名 (管理者)	淡川 みつえ
記入日	平成20年11月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念 笑顔で 楽しく ゆっくりと	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の日課に追われ、入居者との係わる時間が少ない。	○ 職員も余裕のある介護が出来るように努力したい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来所される方には伝えている。なかなか来所されない家族の方々にも伝えている。(えびらお便りを通して)	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所との付き合い 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが出来るように努めている	何名かの方とは付き合いがある。お花や野菜を持ってきて頂いたりする。	○ 催し事を行う事で参加して頂けるよう声かけをしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	地域の行事等は地区長さんなどから連絡をもらうよう伝えている。	

グループホームえびらお Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者などの暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	なかなか出来ていない。		
3. 理念を実践するための理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価をふまえ話し合いを行い改善に取り組んでいる。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況に等についての報告や話合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	委員さんのアドバイスをうけ意見を参考にし取り組みを行っている。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>			
10	<p>○権利擁護事業に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者は地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している</p>	今の時点で必要がない。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	会議などにより話し合いを行っている。		

グループホームえびらお Bユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得をしていただける様、説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見が出た場合は時間を置かず職員同士での話し合いなどにより行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動などについて家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所されたり電話があったりした場合には伝えていている。その他の事は「お便り」「請求書」にて記載している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱はあるが来所される方が投函された事はない。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の意見が出た時は、その時に話合ったり会議で話合ったりしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が出来るよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来ている。	
18	○職員の異動による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ダメージがないよう努力している。	

グループホームえびらお Bユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①研修会等には職員からの申し出も含めて積極的に参加をさせている。②研修後は毎月の職員会で報告を行い処遇の改善や資質の向上に努めている。③個々のステップアップの資格試験の受講等は休暇等を優先し支援をしている。	○	本人よりの申し出も含めて受講できる研修会があれば積極的に参加をさせている。資格試験等も積極的に支援している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①介護支援専門員は同業者との定例の会議・勉強会があり情報の交換等を通してサービスの向上に努めている。②今年は中学校の吹奏楽部を招き音楽会を開催したので近隣の施設に呼びかけた。4施設からの参加があり喜ばれた。	○	①今年の前庭での音楽会を開催し喜んでもらったので今後も当施設の利点を活かした活動を行い他施設との交流を深めていきたい。②職員同士の交流や勉強会にまでは至っていないので交流する機会を増やしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々に話あいをするようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	その時々個々の意見を聞いたり、努力や実績を評価し昇給や賞与等に反映している。研修会等は多く参加させ向上心に繋がるようにしている。	○	全ての職員が同じレベルで処遇ができるように努めていきたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個々との話し合いを出来る機会を設けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている	個々との話し合いを出来る機会を設けている。		

グループホームえびらお Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望、希望を取り入れるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族より要望を聞き無理にしないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護する一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思表示ができない方が多いので何を言いたいか分らず話が終わってしまう事がある。	○	職員も色々な方向からの話をしたりと努力はしているがなかなか出来ていない。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時等に話をしよい関係が保てるようにしている。		
29	○本人と家族の寄りよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方が話していただける事だけ理解しこちらからいろいろ家族間の事など聞かないようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行ける場所等は支援している。希望されても階段しかない寺や誰も居ない自宅等は連れて行けない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が係わり合い、支え合えるように努めている	1人きりにしないようにしている。職員が間に入り関わりを持つようにしている。		

グループホームえびらお Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を絶ち切らない取り組み</p> <p>サービス（利用）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族は、関係を絶ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>家族より連絡があったりすると話をしたりしている。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分の家で暮らしたい」と希望されている人が何名かおられるがその都度話をし理解してもらえるよう努力している。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族・面会者より話を聞き対応するように努力している。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>出来ている。</p>		
<p>2. 本人がよりよく暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・主治医等の意見等もとり入れている。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うと共に、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現状を見ながら作成している。変化があった場合はそれにあった対応をしている。</p>		

グループホームえびらお Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケア実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるために地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、教育機関等と協力しながら支援している	今のところ必要がないと考えている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用される方はいない。	○	専門的なりハビリなど利用される方がないと支援出来る様にした。
42	○地域包括センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括センターと協働している	今のところ必要がないと考えている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を取り入れている。		

グループホームえびらお Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるように支援している</p>	出来ている。		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	バイタルチェックを中心に変化があったりした場合には職員の準看護師の要資格者と話し合い把握できるようにしている。		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者と情報交換や相談に努めている。あるいは、そういう場合に備えて連携している</p>	出来ている。定期的に尋ねるようにしている。		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	家族との話し合いは出来ている。家族からの希望等は前職員に伝えている。		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医などともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備をしている</p>	かかりつけ医との連絡・職員同士の話し合い等、変化によって対応できる様に努力している。		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	その都度、話し合いを行い対応している。		

グループホームえびらお Bユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	注意をし対応している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	話しをするようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の希望に添った支援は出来ていない。本人の意に反して消化しなければならない業務を優先してしまう。	○ 本人の希望をゆっくりと聞き取り入れていく努力をしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服等は本人の希望を取り入れる事があるが全員とはならない。散髪の希望があると近くの美容院に来てもらって行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々希望（どのようなものが食べたいか聞く）を取り入れるようにしている。台所での一緒に作業は難しい。何名かは「つわぶき」を剥いたり「絹さや」の筋を取ったりとか台所で出来ない事を取り入れたりしているが回数は少ない。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、オヤツ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	取り入れられる物は希望により支援している。	

グループホームえびらお Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やオムツの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意がなくても便座に座ってもらったりしてオムツだけの使用にならないように声かけする時もある。		
57	○入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日置きの入浴を基本にしているが本人の希望を取り入れ支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室なので入眠したりベットで横になったり自由にされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望を取り入れたり職員側から見て出来る作業等をお願いしたりしている。外に散歩等に行ったりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が買い物に出かけたり、希望する物を職員に頼んだりされる事もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごされずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に散歩に出たり、ドライブに行ったりと希望があれば支援している。	○	季節によって花や景色を見にドライブする事もある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があれば対応している。		

グループホームえびらお Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があった場合は行っている。品物が送ってきたりした場合は電話をするように声かけする時もある。		
64	○家族や馴染みのひとの訪問支援 家族、知人、友人など、本人の馴染みの人達が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	他に気を使わないように自室（個室）にて話をしてもらうようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強くいつも玄関に出てきているので安全面を考え玄関の自動ドアのスイッチをずらして設置している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通じて利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	出来ている。		
68	○注意の必要な物品の保管 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	話をし、本人に理解をしてもらいながら対応している。台所には危険な物があるのでその人にあった対応の取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	本人に合った対応をしている。転倒をされる方には手摺を多くしたり家具の位置を考えたりし職員で話し合い取り組みを行っている。		

グループホームえびらお Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	消防署から訓練を受けたり、講習を受けたりして対応できるように備えている。		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	消防署からの訓練に地域の方も参加してもらい協力をお願いしている。		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	家族との話し合いを不定期に行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>○体調変化の早期発見と対策</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	日頃の変化に気を配り対応できるようにしている。状況により受診したりして対応している。		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	変化があった場合はノートに書き職員全員が眼を通し確認するようにしている。		
75	<p>○便秘の予防と対策</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	果物（バナナ）を取り入れたり、野菜を多めに使ったりしている。		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	口腔ケア・嗽等介助にて行っている。自力で出来る方には声かけにて促している。		

グループホームえびらお Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>量は摂取量を毎回記入している。栄養バランスは不足していると思われる時は冷凍物を使ったりして工夫している。</p>	○	<p>水分量に対しては少ないと思えると食間に味が変わった物（ポカリ・コーヒー等）で対応し飲んでもらうようにしている。チェック表を作り確実に確保できるように対応する。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>	<p>取り決めは特にはない。インフルエンザは職員共に実施している。</p>	○	<p>他の感染症に対しても職員との話し合いをしていきたい。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具などの衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理器具はこまめに消毒・食材は1日に使用する分を配達してもらうようにしている。食事はできるだけリビングで行ってもらい、居室に食べ残しがないように処分している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>				
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人たちにとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>建物の周りに緑・花が見えるように工夫している。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭を同じような雰囲気を作れるように努力している。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、ひとりになれたり、気のあった利用者同士が思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファに座り自由にテレビを観たり、気の合ったもの同士で食事を一緒に摂れたり配置を変えたりして工夫をしている。</p>		

グループホームえびらお Bユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊りの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使用する物は出来るだけ本人の自宅より持ち込んでもらい、なじみの品で生活をしてもらうよう家族の方にも話をしている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になる臭いや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調整は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>天気に応じて、換気・温度調整は行っている。着る物に対しても本人の状況を見て変えている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手摺を増やしたり、ベットを変えたり工夫している。夜間の転倒防止のためベットの位置を変えたりして負担が少なくすむよう工夫している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>声かけも大きな声でしたりすると傷つけたりするので誘導にも注意している。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>広い庭があるので散歩したり、日光浴したりして利用している。今年は芝生の周りに桜の木を植えてもらい花は少なかったが花見も行った。</p>		